

第 21 回テーマ

素直になる事、受け入れる事

久しぶりに昔の友人に電話をかけた所、あいにく体調を崩していた。申し訳ないので、要件だけ伝えすぐに電話を切ろうとしたら、友人が「大丈夫だよ、良い薬があって、もう飲んだから治ったも同じだよ」と軽く答えてくれた。「病は気から」とは良く言うが、薬を飲んだくらいですぐに治るとはあまり思わないだろう。いや、もしかしたら、自分が素直でないのかも知れない。「信じる力」とは、かくも不思議な効用をもたらしてくれるのでは？と考えを変えねばと思った。

振り返ると、自分は素直ではない、頑固者であると言われる。確かに育ってきた環境や今置かれている人間関係なども影響していると思っている。「疑ってかかる」事が癖になっているのだ。良く言えば「慎重派」なのかも知れないが、本質は「心を上手に開く事ができない」人間だと自己分析する。

友人のように考え方というよりは、何でもむしろ「気の持ち方」によってプラスに向けるという事であろう。見方を変えれば常に疑問を持って論理的に積み上げる癖をつける事も大事だが、一方で「感じたままに素直に受け入れ、素直に相手に接する事」は必要だと素直に思う。これがビジネスであれ、リーダーシップであれ、プライベートでの家庭や友人との関係であれ、猜疑心が蔓延していれば上手なコミュニケーションを取る事はできない。疑問を持たずに「感じる訓練」「感じたままを素直に返す訓練」というのも信頼関係を構築する為には重要な事だろう。

ちょうどその時、先日みた新聞記事の「全盲の方の体験をする研修」の内容を思い出した。円になった集団が杖一つで真っ暗闇の中歩き回る。ぶつかったり、転んだりしながら隣の人との声の連携により支え合う...そして誰かしらがリーダーとなって誘導するというものを体感するものだ。ひょっとしたら、こういった混迷の時代には「相手を信頼する。素直になる。感じたままを表現する」という事が最も重要ではないか？と気がついた。

とにかく「感じ方」や「気持ちの持ち方」一つで信頼関係は出来上がる。反面、信頼を失う事もあるという側面も理解しながら、素直な気持ちで全てを受け入れて見ると良いかも知れない。ぜひ、日頃から気にとめてもらいたいところだ。